

山口県立大学面接試験実施ガイドライン

改訂版 2012年2月

【山口県立大学面接試験実施ガイドラインの策定について】

I 面接試験実施ガイドライン策定の意義

入学試験における面接は、知的な評価を主とする筆記試験と異なり、試験官である教員(以下「面接委員」という)と受験生とが直接的に対面して展開されるところに大きな特徴がある。それゆえに、限られた時間の中で受験生の言語的、非言語的な表現を適切に観察し客観的にその人物像を総合的に且つ公正・的確に理解することが求められる。特に、提出書類等からでは十分把握できない特性※を評価することが要求される。

公正で効果的な入学試験における面接を展開していくためには、周到な準備と面接委員である教員相互の共通の基準や尺度に基づいた面接のとらえ方、展開、評価等の共通理解が不可欠である。

このことから入学試験における各学部学科共通の面接ガイドラインを定め、

- ① 客観的に受験生を評価する。
- ② 面接委員の評価能力を高める。

ことにより、各学部学科が定めている面接試験実施マニュアルを運用する上での共通視点とし、アドミッションポリシーに基づき、山口県立大学の各学部学科が求める学生を選抜するための指針とするものである。

評価項目		特 性 ※					
①	基本的態度 (行動様式)	動作	表情	話し方	性格特性	身だしなみ	
②	学部学科志望理由	動機	興味	関心			
③	学習に向かう態度	意欲	積極性	誠実性	責任感	問題意識	
④	知的処理能力	理解力	表現力	説得力	論理力	語彙力	
⑤	問題処理能力	適応力	判断力	洞察力			
⑥	社会的能力	協調力	社会力	指導力 (リーダーシップ)	発言力	役割遂行力	安定力
⑦	適性 (各学科が求める)	対人関係能力	コミュニケーション能力	ボランティア性	独創性		

II 山口県立大学が求める学生像

山口県立大学は、教育の基盤となる次の四つの基本理念を定めた(1996(平成8)年4月)。

- 人間尊重の精神 (人間の尊厳性を尊重せよ。)
- 生活者の視点の重視 (生命と生活の質の向上に寄与せよ。)
- 地域との共生 (自らが属する地域を愛せよ。)
- 国際化への対応 (自己の国際化に努めよ。)

山口県立大学の求める学生像は、上記の基本理念を理解するとともに、基礎的な学力を持ち、優れた能力や資質を活かしながら、将来、専門学科と関連した職業世界で貢献したいという強い意志のある人物である。

Ⅲ アドミッションポリシー（学部学科が求める学生像）

1 国際文化学部国際文化学科

- (1) 外国の文化やそこで生活している人々から学ぼうとする意志や態度のある人
- (2) 世界の社会的・文化的諸課題を自分の問題として捉え、その原因や背景を追及しようとする態度や意欲のある人
- (3) 新たな外国語を学ぼうとする強い意志と一定の実践的英語コミュニケーション能力のある人
- (4) 異なった文化をもつ人々との交流に必要な豊かな社会性や適応能力のある人
- (5) 必要に応じて国内外に出向き、何でも見てやろうという自発的な行動力のある人

2 国際文化学部文化創造学科

- (1) 日本及び自分が生活する地域の歴史・文化に強い興味と関心を持つ人
- (2) 地域の歴史や文化を国際的視点から深く学ぼうとする意欲や意思のある人
- (3) 言葉や絵、デザインなどの表現やそれに基づく具体的なものづくりなどを通して、地域の生活文化を再生・創造しようという能力や熱意のある人
- (4) 地域の多様な人々との交流に必要な豊かな社会性や人間関係力を備えた人
- (5) 必要に応じて国内外に出向き、何でも見てやろうという自発的な行動力のある人

3 社会福祉学部社会福祉学科

- (1) 福祉の理論を幅広く理解する基礎的学力のある人
- (2) 福祉を実践する能力の基礎としての他者への共感性や思いやりの態度を備えた人
- (3) ボランティア活動などの社会的活動に強い意欲や熱意のある人
- (4) 活力ある福祉社会の実現を求めて、ともに語らい、ともに学び、ともに行動できる人

4 看護栄養学部看護学科

- (1) 人への深い関心を持ち、人と関わるのが好きな人
- (2) 看護学を学ぶために必要な幅広い基礎学力のある人
- (3) 専門の勉学に強い意欲を持ち、目標を定めて、前向きに努力できる人
- (4) 看護職に強く求められている、社会性、協調性、柔軟性、責任感のある人
- (5) 将来、専門的な知識・技術を生かし、人々の健康や福祉のために貢献したいという熱意のある人

5 看護栄養学部栄養学科

- (1) 高等学校で基本とされている教科を幅広く学び修得し、理科特に化学と生物の知識を十分に有している人
- (2) 現代社会における様々な問題に対して多面的に考察し、自分の意見をまとめる事ができる人
- (3) 「食と健康」に興味関心を持ち、身につけた知識・技能を福祉社会の創出のために役立てたいと考えている人
- (4) 課題の内容を理解し、求められた説明や自分の意見を論理的に組み立て、分かりやすく伝えることができる人

【山口県立大学面接試験実施ガイドライン】

IV 面接試験の目的

入学試験における面接試験は、筆記試験では把握できない人物評価を行い、アドミッションポリシーに照らし合わせて、各学部学科で学ぶのにふさわしい諸特性（受験生の基本的態度、学部学科への志望理由、学習に向かう態度、知的処理能力、問題処理能力、社会的能力及び各学科が求める適性等）について把握するために意図的な質問を行い、受験生の応答、反応というダイナミックな連続性を伴う過程を通じて総合的に評価する。

V 面接試験の方法

面接試験の方法には大きく分けて、一人の受験生に複数の面接委員が個別に面接する個人面接方式と、数人のグループに分けた受験生を複数の面接委員が面接する集団面接方式がある。

各々の面接方法には特徴があり、入学試験の過程においては目的に応じて使い分ける、あるいは組み合わせる実施することが重要である。

1 個人面接方式

個人面接方式は、受験生を個別に面接することから、事前の提出書類や筆記試験等の傾向を踏まえた質問等を通じて、書類や筆記試験では把握できない、総合的な人物像について面接過程を通して理解することを目的とする方式である。

受験の志望理由について、希望する学部学科への志望動機、興味、関心及び学習に向かう態度等について質問し、その対応を通じて、志望理由の明確性と学習に取り組む態度、質問への処理能力（適応力、判断力、洞察力、理解力、表現力、説得力、論理力等）を個別に把握することができるとともに、適性等の諸特性の把握が容易になる。

一方、個人対個人の対応場面が基本的な枠組みとして設定されるので、集団場面での社会的能力（協調力、社会力、指導力、安定力、発言力、役割遂行力等）の把握が難しい面もある。

個人面接方式には以下の2つの方式があり、把握したい能力を見るために使い分けたり、併用したりする必要がある。

(1) 個人面接方式

個人面接では、志望理由及び各学部学科に関連する内容等を中心とした質問への対応から見えてくる能力を把握する。

(2) プレゼンテーション面接方式

プレゼンテーション面接では、与えられた課題（テーマ）について理解し、制限時間内に自分の意見や考え方をまとめ、内容を分かりやすく相手に伝えられる知的及び問題処理能力を把握する。

2 集団面接方式

いわゆる、集団面接方式には2つの種類がある。第一のものは基本的には個人面接ではあるが、これを数名ずつ同時並行的に行うものであり、第二のものは、ここで詳述する、受験生同士に話し合いやグループワークなどの相互作用のある課題を課し、このプロセスを面接者が一定の基準を持って採点するものである。いずれの場合であっても、小グループによる集団で面接することから、

メンバー間での相対的な比較が評価として把握しやすいという特徴がある。受験生同士に相互作用のある課題では、面接を受ける受験生集団へ討論テーマを与えることなどにより、知的および問題処理能力や、社会的能力及び独創性等といった各学科が求める適性を把握することに適している。テーマや展開方法により、ディベート方式、自由討論方式、場面設定方式があり、面接の目的、評価したい視点（つまりアドミッションポリシーが反映された規準）により使い分ける工夫が必要である。また、テーマを設定する場合はそのテーマ内容で面接の質や受験生の対応力が左右されることもあるので注意が必要である。

(1) ディベート面接方式

ディベート面接では、テーマに沿って「賛成派」・「反対派」等の二つのグループに分け、討議し合う形式であり、グループ内での知的処理能力、問題処理能力、社会的能力を把握し評価する。

(2) 自由討論面接方式

自由討論面接では、テーマに沿って自由に集団討論をし、その場面から性格特性等の基本的態度、知的及び問題処理能力、社会的能力を把握し評価する。

(3) 場面設定面接方式

場面設定面接では、自由討論方式と同様にテーマに沿って集団討論をするが、もう少し細かく場面や条件が設定されている。

VI 評価点

学部学科で教育を行うために、以下の特性について把握し、評価する。

評価項目		特 性					
①	基本的態度 (行動様式)	動作	表情	話し方	性格特性	身だしなみ	
②	学部学科志望理由	動機	興味	関心			
③	学習に向かう態度	意欲	積極性	誠実性	責任感	問題意識	
④	知的処理能力	理解力	表現力	説得力	論理力		
⑤	問題処理能力	適応力	判断力	洞察力			
⑥	社会的能力	協調力	社会力	指導力 (リーダーシップ)	発言力	役割遂行力	安定力
⑦	適性 (各学科が求める)	対人関係能力	コミュニケーション能力	ボランティア性	独創性		

VII 面接試験の実施前の準備

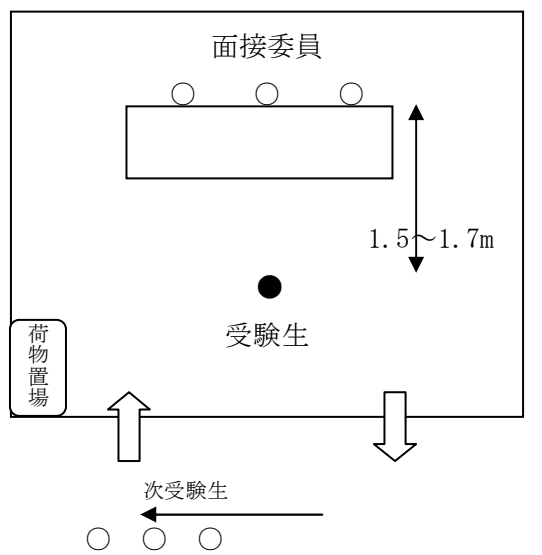
1 会場設営

- (1) 面接会場は、受験生がリラックスして面接に臨めるように温度、採光、騒音等への環境的な配慮をする。
- (2) 受験生と面接委員である教員との距離や角度も緊張感等に大きな影響を与えることを認識し、十分配慮する。
- (3) 公正を期する意味から、面接終了者と、面接を待つ受験生が交錯しないような誘導ルートに配

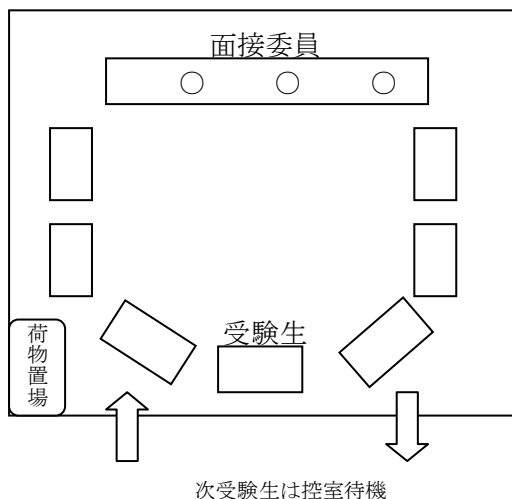
慮する。

- (4) 障害を持つ受験生及び体調不良の受験生等については、事前の申し出に基づいて環境や設備の対応を配慮する。

個人面接会場配置例



集団面接会場配置例



2 面接委員の事前確認事項

- (1) 複数の面接委員間で役割の確認（主任面接員、計時係等）をする。
- (2) 評価資料、志願票等の必要資料の確認をする。
- (3) テーマ表題、ストップウォッチ等の用具の確認をする。
- (4) 評価基準についての確認をする。
- (5) 誘導担当者との手順の確認をする。
- (6) 志願票、評価表等の取扱い、保管等については、決められた手順にのっとり十分徹底する。
- (7) 作品、成果物の発表、提示、持ち込み等については、事前に明確化した方針を徹底する。
- (8) 論文試験等が併せて実施される場合には、そのテーマを確認し、論文試験や面接試験に影響を及ぼさないように配慮する。

3 受験生に対するオリエンテーション

- (1) 面接実施前には面接に臨むにあたっての注意事項を含んでオリエンテーションを実施する。
- (2) オリエンテーションで伝達すべき内容は、受験票の提示、日程、面接概要、会場、時間、誘導方法等である。
- (3) オリエンテーションの段階から受験生がリラックスして面接に臨めるように担当者も表情や、言動に配慮する。
- (4) 面接終了時まで携帯電話の電源を切ることを徹底する。
- (5) 面接会場への携行品とその置き場について説明する。
- (6) 面接終了後の退出ルートを説明する。

4 その他事前留意事項

- (1) 遅刻者の取扱いについては、あらかじめ決められた手順による。
- (2) 受験票による本人の確認をする。
- (3) 控室における実人員と受付済者数の一致の確認をする。
- (4) 面接時間、面接の順番、おおよその開始時刻がわかるように明示する。
- (5) 面接順については日程、交通状況等を考慮して、遠距離からの受験生の負担とならないように配慮する。
- (6) 集団面接のグループ分けは事前の接触を防止する意味から直前まで受験生にわからないようにする。
- (7) 面接終了者と面接を待つ受験生が交錯しないような環境的配慮をする。
- (8) 不測の事態の対応については、対応マニュアルを確認周知しておく。

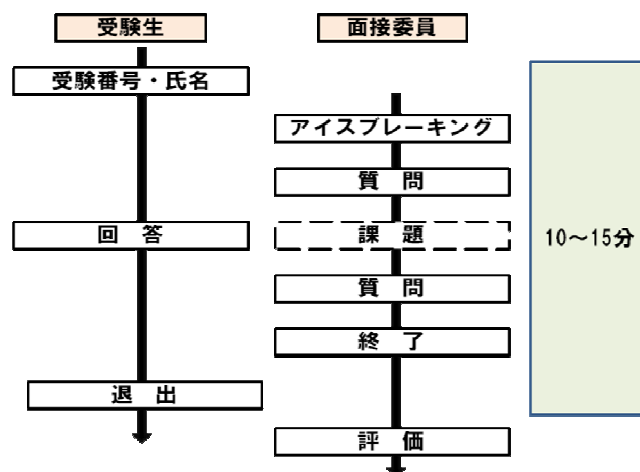
VIII 面接試験の実施方法

1 個人面接方式

(1) 個人面接方式

- ① 時間は、概ね10～15分程度とする。
- ② 面接委員は、1会場概ね3名程度の複数で担当する。
- ③ 面接委員の中で、主任を決め、主任は試験会場の進行管理に当たり、質問分担(主任が主として質問をし、その他は補足質問をする)、評定結果の整理等を行う。

(個人面接 フローチャート)



個人面接における質問内容の例

- ① 自己紹介を含めた自己PR
- ② 本学あるいは学部・学科の受験理由（目的、動機などアドミッションポリシーをふまえて）
- ③ 各学部学科について考えること
- ④ 各学部学科の教育の中で特に興味のあること
- ⑤ 部活・ボランティア等これまでの活動について（その活動から得たこと、学んだことは何か？）
- ⑥ 趣味について

- ⑦卒業後の進路について
- ⑧入学後の生活について（大学生活で最も力を注ぎたいことはどのような活動か？）
- ⑨高校卒業から現在までの履歴（卒業見込みの者以外で明確でないもの）
- ⑩併願状況（必要時）
- ⑪その他、以上の項目で聞けなかったこと、聞き漏らしたことなど

<個人面接の展開例>

アイスブレイキング

- ①受験生の不安感や緊張感を解消する
- ②1～2分で答えられる質問をする
 - 「ここまでどうやって来ましたか」
 - 「ここまでどのくらい時間がかかりましたか」など

質問項目の例

- ①基本的態度（性格特性）
 - 「趣味は何ですか」
 - 「余暇をどのように過ごしていますか」
 - 「高校生活等でこれまでに熱中したものは何ですか」
 - 「あなたのどのようなところが、本学科に向いていると思いますか」
 - 「友達にはどのようなタイプの人が多いですか」
- ②大学・各学部学科への志望理由（動機、興味、関心）
 - 「この大学を選んだ理由をお話してください」
 - 「なぜ、本学科を志望しようと思ったのですか」
 - 「本学科を選んだ理由をお話ください」
 - 「本学科の教育についてどのように思っていますか」
 - 「本学科について知っていることを教えてください」
- ③-1 学習に向かう態度（意欲、問題意識）
 - 「本学科を志望するにあたり、目標がありますか」
 - 「本学科に関係する仕事について知っていることを話してください」
 - 「本学科に関係する仕事についてのあなたの考えを話してください」
- ③-2 学習に向かう態度（積極性）
 - 「本学科で学びたいことは何ですか」
 - 「本学科で学ぶ時、どのような心構えが必要だと思いますか」
 - 「大学で、何を目標に、どのような姿勢で学びたいですか」
 - 「自己啓発の為に努力していることがありますか」
 - 「将来の目標は何ですか」
- ③-3 学習に向かう態度（誠実性、責任感）
 - 「現在関心を持っていることは何ですか」
 - 「あなたの長所を〇〇の仕事にどのように生かしますか」
 - 「あなたのどのようなところが、本学科に向いていると思いますか」
 - 「何か苦手なことに挑戦したり、克服したりした経験がありますか」

- 「これまで学んだことをこれからの生活にどのように役立てたいと考えていますか」
- 「現在の生きがいは何ですか」
- 「挫折した時どう解消しますか」
- 「学校生活にはどのように取り組んでいきたいと考えていますか」
- 「一生続けていきたいことが何かありますか」
- 「目標を達成する為にどんな計画を持っていますか」
- 「遠い目標と近い目標を話してください」

④問題処理能力（適応力、判断力）

- 「友人に相談を持ち掛けられた時どうしますか」
- 「友人と討論をしたが、意見がまとまらないとき、どうしますか」
- 「『世の中で頼りになるのは自分だけだ』という考え方をどう思いますか」
- 「学びやすい学校とはどういう学校ですか」
- 「集団の目標と自分の目標がくい違ったときどういう態度をとりますか」

⑤社会的能力（協調力、社会力）

- 「クラブ活動の経験はありますか。その活動から何を学びましたか」
- 「自分と価値観や考え方の違う人とはどういう付き合い方をしますか」
- 「友人はどれくらいいますか。友人とどのようなことをして過ごしていますか」
- 「好きな友人のタイプは。なぜ好きですか」
- 「人に会ったり、話したりするのは好きですか」
- 「悩み事は誰に相談しますか」
- 「あなたは、どちらかというと、世話をする方ですか、それともされる方ですか」

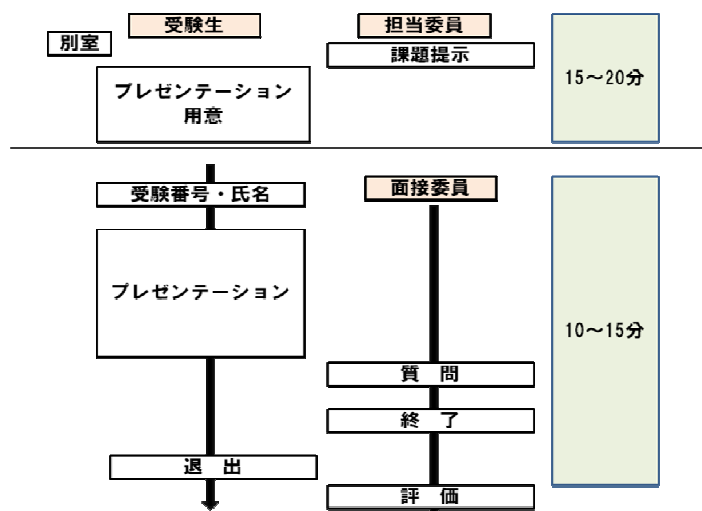
⑥適性

- 「あなたはなにが得意で（なにが不得意で）ですか。理由も聞かせてください」
- 「部活やその他の活動について、どのような活動をしてきましたか」
- 「本学科で学んでいくのにどんな能力が必要だと思いますか」

(2) プレゼンテーション面接方式

- ① プレゼンテーション面接では、課題を与えた後、考えをまとめる時間（15～20分程度）を取る。
- ② 考えをまとめるためにメモ用紙と鉛筆を用意する。
- ③ プレゼンテーション面接は、原則10～15分程度とする。
- ④ プレゼンテーション面接は、1面接会場数人（3人程度）の面接委員で行う。
- ⑤ 面接委員の中で主任を決め、主任は試験会場の進行管理に当たり、評定結果の整理等を行う。

(プレゼンテーション面接 フローチャート)



(3) 個人面接における面接評価項目とその着眼点の例

① 基本的態度(動作、表情、話し方、性格特性、身だしなみ)

対応ぶりを通して、まじめさ、明朗さ、落ち着き、身だしなみなどについて評価を行う。

- ・服装は清潔感があり、TPOをわかまえているか。
- ・表情は生き生きしているか。
- ・素直であるか(ありのまま、自然な様子であるか)。
- ・動作、表情、話し方、話の内容に違和感はないか。

② 大学・各学部学科への志望理由(動機、興味、関心)

大学・各学部学科で学ぶ動機、興味、関心について評価を行う。

- ・各学部学科で学ぶ動機、興味、関心が明確で、納得出来るものか。

③ 学習に向かう態度(意欲、積極性、誠実性、責任感、問題意識)

<意欲>

大学・各学部学科で学ぶ上での意欲について評価を行う。

- ・各学部学科で意欲を持って勉学に取り組み、4年間の学習を続けられるか。
- ・各学部学科で学ぶ動機、興味、関心を基にして、学習に取り組む姿勢が感じられるか。

<積極性>

受験の動機や〇〇に対する熱意、学校生活での活動ぶり、趣味、余暇の過ごし方等を話す態度から、意欲や受験生らしい活気があるなどについて評価を行う。

- ・行動的で、前向きであるか。
- ・気迫や意欲が感じられるか。

<誠実性・責任感>

学校生活や部活動等における誠実さと責任のある行動の有無について評価を行う。

- ・誠実さ・責任感はあるか。
- ・しっかりして安定感があるか。

④ 知的処理能力(理解力、表現力、説得力、論理力)

<理解力・表現力、説得力、論理力>

質問に対しその内容を理解し、的確に答えているか、一貫性があるか、分りやすく簡潔に答えているかなどについて評価を行う。

- ・質問の意味を理解して、的はずれな答えになっていないか（対応力）。
- ・自分の考えを適切に簡潔に表現しているか。
- ・聞き易い明瞭な発声か。
- ・内容が豊かで、面白みのある表現か。
- ・受け売りではなく自分の意見が言えているか。
- ・筋道の通った発言であるか（話の論理性）。

⑤ 問題処理能力(適応力、判断力、洞察力)

<適応力・判断力>

考え方に、柔軟性と弾力性をもって発言することができるかなどについて評価を行う。

- ・質問の意味を、早く正確に理解し、機敏に対応することができるか。
- ・その場に則した的確な判断、決断が出来るか。
- ・学生生活を続けていけるか。
- ・周囲と協調していけるか。

⑥ 社会的能力(協調力、社会力、指導力、役割遂行力、発言力、安定力)

<協調力>

協力的な姿勢があるか、ものの見方・考え方が独善的でないかなどについて評価を行う。

- ・付き合いやすい人という印象をもっているか。
- ・ものの見方、考え方が独善的ではないか。
- ・人を理解し、うまく物事を進めることが出来るか。
- ・集団目標を達成する場合、助け合って物事を進めることが出来るか。

<社会力・指導力>

学級活動、クラブ（部）活動、社会的体験にかかわる活動等から対人関係の円滑さ、集団の中での統率力、視野の広さなどについて評価を行う。

- ・社会的活動や趣味(クラブ活動)が、よい影響を与えているか。
- ・社会常識があるか。
- ・人間関係が円滑で自己中心的でないか。
- ・集団場面でのリーダーシップが取れるか。
- ・どのような行動が正しいかを自分で判断して実行出来るか。

<安定力>

質問に対して、自制心を失ったり、冷静さを欠いたりすることがなく、情緒の安定やゆとりをもって、その場に応じた妥当な判断と適切な発言ができるかなどについて評価を行う。

- ・自分軸がしっかりと定まっているか。
- ・言動に矛盾はないか。
- ・情緒的に安定しているか。

⑦ 適性

その人となりや性格はアドミッションポリシーに基づく人材として適しているか評価を行う。

- ・その他、各学部学科で求める評価視点を設定する。

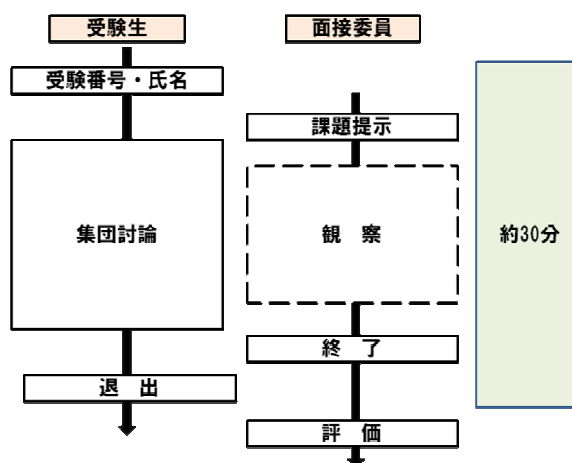
2 集団面接方式

(1) 集団面接方式（ディベート面接方式、自由討論面接方式、場面設定面接方式）

- ① 時間は、概ね 30 分程度とする。
- ② 1 グループは、5～9 人の概ね 10 人未満 とする。
- ③ 指示されたテーマについて集団討論を行う。
- ④ 面接委員は、1 会場概ね 3 名程度の複数で担当する。
- ⑤ 面接委員の中で、主任を決め、主任は試験会場の進行管理に当たる。

注) 集団の形態をとりながらも、個人を対象として志望動機等を聞く面接方式については個人面接の項を参照

(集団面接 フローチャート)



(2) 集団面接の注意事項

全体の面接時間を考慮して次の内容の時間配分をする。②、③については意図的に設定されず

①のみで終了する場合もある。

① 集団討議

- ・面接委員からの事前説明、課題提示を含む。
- ・必要があればグループ内から司会者を選出させる。

② 討議のまとめ

- ・受験生が討議のまとめや感想を述べる時間を含む。

③ 面接委員からの質問

- ・与えられた課題については、受験生間で討議する中で問題点を整理し、グループの協力によって討議が高まるようグループ全員に対して周知する。
- ・受験生の呼び方は「A さん」「B さん」とする場合と本名で呼ぶ場合がある。受験生の匿名性を保護すべき場合には前者であるが、呼称として数字や文字を用いることは、場合によっては個人的な人格を損なう可能性もあるので注意が必要である。
- ・討議終了後のまとめのスピーチは短時間で終了するよう具体的な時間を指示する。
- ・集団討議及びまとめのスピーチ終了後、受験生に対して特に質問がある場合は、面接委員から質問を行う。その場合質問時間は短時間であることに留意する。また、あくまでも集団討議に関連した事柄（集団討議の受験生の発言に関して、この受験生にもう少し意見を聞いてみたい、あるいは確認してみたい点等）についての質問をする。一般的な事柄の質問は、個人面接において行うため、質問をしない。

(3) 集団面接における面接評価項目とその着眼点の例

① 基本的態度(動作、表情、話し方、性格特性、身だしなみ)

課題や集団討議過程への対応ぶりを通して、まじめさ、明朗さ、落ち着き、身だしなみなどについて評価を行う。

- ・服装は清潔感があり、TPOをわかまえているか。
- ・表情は生き生きしているか。
- ・素直であるか(ありのまま、自然な様子であるか)。
- ・動作、表情、話し方、話の内容に違和感はないか。

② 知的処理能力(理解力、表現力、説得力、論理力)

<理解力・表現力、説得力、論理力>

課題や集団討議過程での他者の意見を理解し、的確に答えているか、一貫性があるか、分りやすく簡潔に表現しているかなどについて評価を行う。

- ・コミュニケーション能力があるか。
- ・他人の話に耳を傾け、それを正確に理解することができるか。
- ・課題の趣旨や他者の意見を理解し、的はずれな答えになっていないか(対応力)。
- ・自分の考えを適切に簡潔に表現しているか。
- ・聞き易い明瞭な発声か。
- ・内容が豊かで、面白みのある表現か。
- ・受け売りではなく自分の意見が言えているか。
- ・筋道の通った発言であるか(話の論理性)。

③ 問題処理能力(適応力、判断力、洞察力)

<適応力・判断力>

考え方に、柔軟性と弾力性をもって発言することができるかなどについて評価を行う。

- ・課題や集団討議過程での他者の意見を、早く正確に理解し、機敏に対応することができるか。
- ・その場に則した的確な判断、決断が出来るか。

④ 社会的能力(協調力、社会力、指導力、役割遂行力、発言力、安定力)

<協調力>

協力的な姿勢があるか、ものの見方・考え方が独善的でないかなどについて評価を行う。

- ・円滑な人間関係を保つことができるか。
- ・協調性が感じられるか。
- ・独断的で自己の意見に固執することはないか。
- ・付き合いやすい人という印象をもっているか。
- ・ものの見方、考え方が独善的ではないか。
- ・人を理解し、うまく物事を進めることができるか。
- ・集団目標を達成する場合、助け合って物事を進めることができるか。

<社会力・指導力>

グループ討議の中でのリーダーシップはあるか、対人関係の円滑さ、集団の中での統率力、視野の広さなどについて評価を行う。

- ・社会的常識があるか。
- ・人間関係が円滑で自己中心的でないか。

- ・集団場面でのリーダーシップが取れるか。
- ・どのような行動が正しいかを自分で判断して実行出来るか。

<安定力>

課題の対応や討論過程を通じて自制心を失ったり、冷静さを欠いたりすることがなく、情緒の安定やゆとりをもって、その場に応じた妥当な判断と適切な発言ができるかなどについて評価を行う。

- ・自分の主張がしっかりと定まっているか。
- ・言動に矛盾はないか。
- ・情緒的に安定しているか。

⑤ 適性

その人となりや性格はアドミッションポリシーに基づく人材として適しているか。

- ・その他、各学部学科で求める評価視点を設定する。

(4) テーマ

- ① テーマは入試管理委員会の指示、管理に基づいて複数の担当者が検討して作成する。
- ② テーマの作成においては以下の点に留意する。
 - ・受験生の人柄を見ることができるもので、評価の観点に関連するものとする。
 - ・ディベート方式を除いて、正否を決めたり、賛成反対を問うものは避ける。
 - ・特別な知識を必要とするものは避ける。
- ③ テーマの設定にあたってはその出題の意図と採点基準が面接委員に示されること。
- ④ テーマは入試管理委員会との連携のもと慎重に保管され、公正な条件の中で面接会場にて示されること。

<集団面接の展開例>

自分の席に着いてください。

おはようございます。どうぞリラックスしてください。

ここでは、この集団面接が終了するまでの間、お互いの名前はAさん、Bさんと呼んでください

最初に、これからお示しする課題について、集団討議をしていただきますが、討議の進め方は皆さんにお任せして、面接委員からは基本的に口を出しませんので、誰がどんな役割をするも皆さんで決めていただき、グループの協力によって討議が高まるように努力してください。

集団面接の課題は「・・・・・・・・」です。

それでは始めてください。

(「討論時間はあと5分です」と全員に討論が終わりに近づいていることを知らせる)

〇〇分が経過しましたので討議を終えてください。

これで集団面接を終了いたします。

IX 面接試験における留意事項

面接委員と受験生が、できるかぎり自然な状態で面接ができるように心掛ける。特に、次の点に注意する。

1 質問の仕方

- (1) 質問は評価の資料を得るために行うものであるから、評価項目に即した質問を選ぶ。
- (2) 系統的に質問をし、重複した質問や脈絡のない質問を避けるため、事前に面接委員で打ち合わせを行い質問の順番や、質問項目等の調整をする。
- (3) 質問の数は多過ぎるとかえって受験生、面接委員も混乱し、まとまりのつかないものになりがちなので質問は効率的に構成する。
- (4) 質問に際しては面接委員の個人的な意見や見解を主張しないようにする。
- (5) 抽象的な質問は避ける。受験生が質問の趣旨をはっきりつかめるように平易な言葉で質問をする。
- (6) 受験生に多く発言させるように努める。面接委員が自分の意見を述べることは避ける。
- (7) 面接委員は、常に平静・誠実な態度で当たり、受験生の応答を最後まで落ちついて聞くように心掛ける。
- (8) 面接委員は、常に平静を保ち、委員の語気、態度等によって受験生に警戒心を抱かせたり、追い詰めたりしないように配慮する。
- (9) 受験生がリラックスでき、大学に対して好印象で面接試験を終了できるように配慮する。

<発展的な質問>

面接場面で基本的質問の発展的な質問として、「なぜ」「どうして」など以下のような質問を適宜、用いると、新しい局面に対する反応を引き出し、受験生の個性や特性が表面化しやすくなるので、受験生の心理的負担にならない程度に使用すると効果的である。

■ 応答が不十分だと思われたとき

「そのことについてもっと詳しく話してください」

■ 応答したことに関連する行動を聞き出したいとき

「それで

「そのとき

「それに対して

あなたは、どう

し

考え

言い

ましたか」

<面接時の質問禁止事項>

- ① 家族の職業、続柄、健康
- ② 支持政党
- ③ 生活信条
- ④ 家族の資産、収入、学歴、社会的地位（職業、職階、役職、企業規模等）
- ⑤ 尊敬する人物
- ⑥ 住居状況（部屋数、間借りなど）

⑦思想 ⑧宗教

⑨本籍・生まれ育った場所

★性的差別につながる質問（注1）はしないこと

★性的な嫌がらせと受け取られるような言動（注2）には十分注意すること

注1 性的差別につながる質問の例

- ・男性（女性）なのに、なぜ〇〇学科を受験したのですか？
- ・結婚後も仕事を続けるつもりですか。
- ・あなたは、とてもおきれいなので、〇〇（学科で取得できる資格名）を目指すよりもモデルを目指してはどうですか。

注2 性的嫌がらせにつながる質問の例

- ・あなたはからだが丈夫そうなので、〇〇学科に向いていますね。
- ・あなたは、いかにも〇〇県の出身らしいお顔立ちですね。

<一見問題がないようでも話の流れにより問題となる場合がありうる質問事例>

- ・最近のニュースで関心のあること
- ・現在の世の中をいかに考えるか
- ・最近読んだ本とその理由
- ・理想的な世の中とは
- ・父（母）について紹介してください
- ・公平と不公平について

※面接の過程で受験生が上記の「質問禁止事項」や「問題となりうる質問事例」に該当するような発言をし始めた場合は、上手に話題をそらすこと

2 回答の聞き方

- (1) 受験生が質問の趣旨を理解したら、それに対する回答時間を十分取る。
- (2) 受験生の回答を無視したり、無関心な態度を示したり、回答を中断させない。
- (3) 受験生が質問の趣旨や意味を間違えて回答しても、できるだけその回答を終わりまで聞くように努める。

3 観察の仕方

- (1) 面接で認められる受験生の人格特性の差異は顕著なものではなく、わずかな相違を見落とさないように観察する。
- (2) 観察に当たっては、言語化されたものだけでなく、表情や行動などの非言語的情報、及びその背景の意味や関係を考えながら注意深く観察する。
- (3) 受験生の総合的な資質の把握に努め、発言内容、態度、思考力等について全体として人格を把握するように努める。
- (4) 集団面接においては、必要に応じて、面接委員は場所を変えて、集団の中での受験生個人としての観察を行う。
- (5) 一つの強い印象に支配されることなく、個々の評価項目を独立したものとして冷静に観察する。

X 面接試験の評価と留意点

1 面接試験の位置づけと評価

- (1) 面接試験を、小論文と同じように「試験」として位置づける

- (2) 問題を想定して準備した回答を求めるのではなく、対話を通じて個々の「適性」を主張する場を提供する。
- (3) 基本的態度、学部学科への志望理由、学習に向かう態度、知的処理能力、問題処理能力、社会的能力等の視点から主張の的確性・正確性、総合的なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、独創性などを重視し、各学科が求める特性について評価、採点を行う。
- (4) 強い目的意識と学習意欲をもち、それを自分らしく明確に表現できる人を積極的に評価する。

2 評価の留意点

- (1) 一つの特徴を過大評価し、若しくは過小評価しない。
(例) 挨拶がすがすがしいので、他の部分は不問にする。
- (2) 前受験生との比較をして評価しない。
- (3) 一つの特徴を受験生のすべての人格的特徴として評価しない。
(例) スポーツで好成績をあげたので、学業の達成も見込まれるはず。
(例) 遠方からきた受験生は、それだけで大したものだ
- (4) パターン化して(ステレオタイプで)評価しない。
(例) ○○高校の出身なので、成績は伸びるはずだ。
- (5) 面接委員の個人的な好き嫌いで評価しない。
(例) ペットを大切にしている人間に悪い人間はいないはずだ。
(例) 卒業生の○○さんと同じ雰囲気なので、良い人材に育つに違いない。

3 評価基準と合否判定基準

- (1) 各評価項目については、各学科のアドミッションポリシー等に照らし合わせ配点および総合評価点を定める。
- (2) 面接の総合評価においては複数の面接委員の評価の相違を尊重し、受験生全体の分布を配慮して客観的評価基準を設定する。
- (3) 評価においては数値化に努め、情報開示等に耐えうる客観的なものとする。
- (4) 各学部学科においては、面接試験の総合評価と他の学力試験、論文等の試験結果、及び評定平均値、調査書等との配点、整合性を明らかにし統一的な合否基準を設定する。

個人面接評価表

面接委員（署名）

受験番号

評価項目	着 眼 点	評 価
基本的態度 <small>（動作、表情、話し方、性格特性、身だしなみ）</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服装や言動から、まじめさ、明朗さ、落ち着きを感じられるか ・ 表情はいきいきとしているか ・ ありのまま素直な様子であるか ・ 動作、表情、話し方、話の内容に質的違和感がないか 	
学部学科への志望理由 <small>（動機、興味、関心）</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受験の動機や志望領域に対する熱意、意欲、目的意識が明確か 	
学習に向かう態度 <small>（意欲、積極性、誠実性、責任感、問題意識）</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受験の動機や志望領域に対する熱意、意欲、目的意識が明確か ・ 学校生活、趣味等から行動的で、前向であるか ・ 考え方が前向きで向上心があるか ・ 自らの考えを積極的に伝えようとしているか 	
知的・問題処理能力 <small>（適応力、判断力、洞察力、理解力、表現力、説得力、論理力）</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質問内容を理解し、的を射た対応であるか ・ 冷静で筋道の通った表現ができるか ・ 一般論ではなく自分の意見として表現できるか ・ 自分の意見を適切に簡潔に表現できるか 	
社会的能力 <small>（協調力、社会力、指導力、役割遂行力、発言力、安定力）</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校活動や、社会的活動等から広い視野をもっているか ・ 他人や集団と関係性が築けるか ・ 多様な価値や考えを受け入れることができるか ・ 他者への思いやりや関心が高いか ・ どんな質問にも自制心を失わずに冷静に対応できるか ・ のびのびとしたおおらかさが感じられるか ・ 情緒の安定感があり、ゆとりが感じられるか ・ 場に応じて自己規制ができているか ・ 困難や課題に対して冷静に対応できるか 	
適 性	<ul style="list-style-type: none"> ・ アドミッションポリシーに適合するか ・ 志望領域に要求されている諸条件に対応できるか 	

※絶対評価を基本としつつ受験生のバランスを配慮して総合評価する。	総 合 評 価	
----------------------------------	------------------	--

5. 非常にふさわしい 4. ふさわしい 3. 普通 2. ふさわしくない 1. 絶対ふさわしくない

集団面接評価表

面接委員（署名）

受験番号

評価項目	着 眼 点	評 価
基本的態度 （動作、表情、話し方、性格特性、身だしなみ）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服装や言動から、まじめさ、明朗さ、落ち着きを感じられるか ・ 表情はいきいきとしているか ・ ありのままに素直な様子であるか ・ 動作、表情、話し方、話の内容に質的違和感がないか 	
知的処理能力 （理解力、表現力、説得力、論理力）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受験の動機や志望領域に対する熱意、意欲、目的意識が明確か ・ コミュニケーション能力があるか。 ・ 他人の話に耳を傾け、それを正確に理解することができるか。 ・ 課題の趣旨や他者の意見を理解し、的はずれな答えになってないか。 ・ 自分の考えを適切に簡潔に表現しているか。 ・ 聞き易い明瞭な発声か。 ・ 内容が豊かで、面白みのある表現か。 ・ 受け売りではなく自分の意見が言えているか。 ・ 筋道の通った発言であるか（話の論理性）。 	
問題処理能力 （適応力、判断力、洞察力）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題や集団討議過程での他者の意見を、早く正確に理解し、機敏に対応することができるか。 ・ その場に則した的確な判断、決断が出来るか。 	
社会的能力 （協調力、社会力、指導力、役割遂行力、発言力、安定力）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 円滑な人間関係を保つことができるか。 ・ 独断的で自己の意見に固執することはないか。 ・ 人を理解し、うまく物事を進めることが出来るか。 ・ 集団目標達成の場合、助け合って物事を進めることが出来るか。 ・ 社会的常識があるか。 ・ 人間関係が円滑で自己中心的でないか。 ・ 集団場面でのリーダーシップが取れるか。 ・ 自分の主張がしっかりと定まっているか。 ・ 言動に矛盾はないか。 ・ 情緒的に安定しているか。 	
適 性	<ul style="list-style-type: none"> ・ アドミッションポリシーに適合するか ・ 志望領域に要求されている諸条件に対応できるか 	

備 考	※絶対評価を基本としつつ受験生のバランスを配慮して総合評価する。	総 合 評 価	
--------	----------------------------------	------------------	--

5. 非常にふさわしい 4. ふさわしい 3. 普通 2. ふさわしくない 1. 絶対ふさわしくない